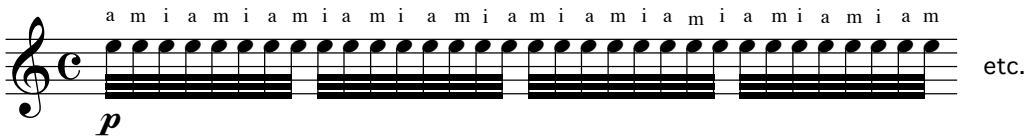
右手首の脱力と、各指の独立した動きのための訓練-3

（a,m,i, 3本指の訓練）

＊次からの譜例は、「譜例-5-c」でスムーズにアポヤンド奏法移行ができてから進みます。
仮に４拍子で記譜しますが、無拍子で音の数も記譜通りでなくてよく、a,m,iの間隔と音量をそろえる（つぶをそろえる）ことに集中する。

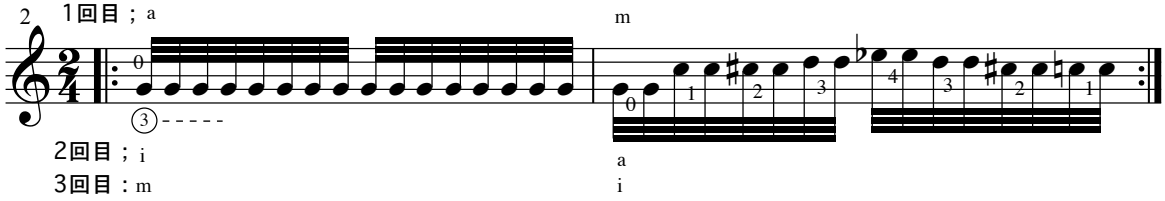
譜例-6



＊①で20～30秒くらいなめらかに弾けるようになったら、②③でも同様に練習します。

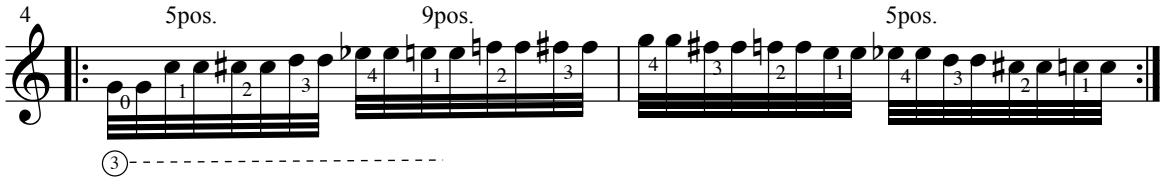
＊譜例-7からは、拍子とテンポをきっちり感じながら弾きます。
3回弾き終わると、1回目の運指に戻ります。

譜例-7



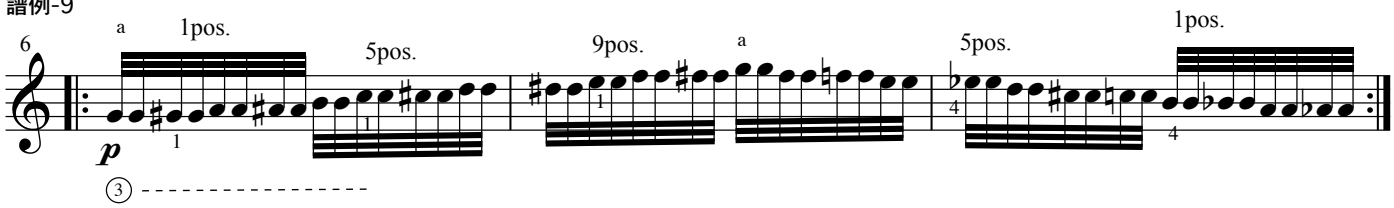
譜例-8

＊譜例-8は、ポジション移動（5pos.～9pos.～5pos.）をしながら左右のタイミングを合わす。



＊③のみの半音階練習（pos.移動２回）。

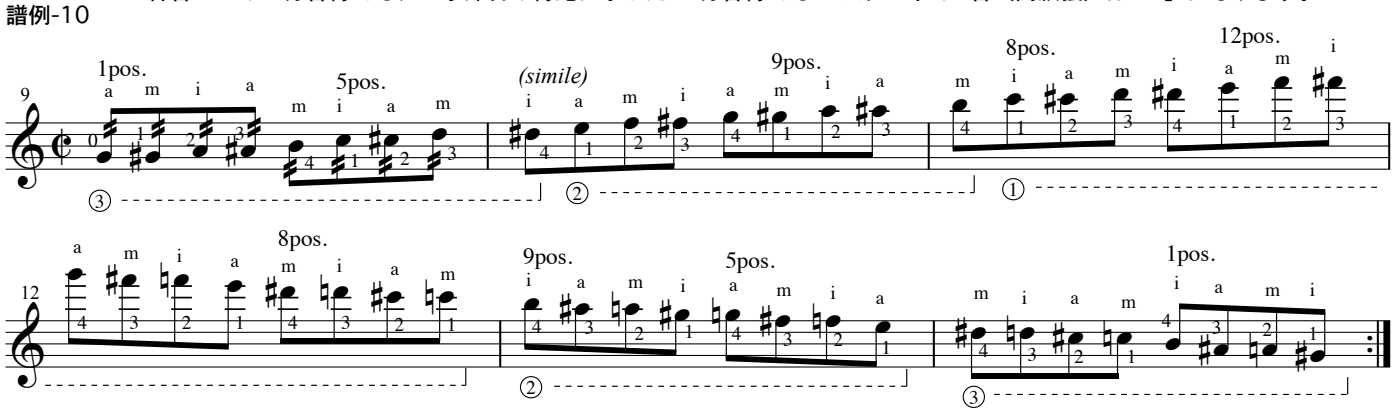
譜例-9



● pos.移動のとき、移動直前や移動直後の音が「意識されない強音」にならないこと。
レガートに音量をコントロールする（音のつぶをそろえる）。
③で滑らかに弾けるようになったら、②①でも練習する。（低音弦は必要ありません。）

＊譜例-10は、譜例-9を応用した３弦にわたる「半音階」です。
左手は、各弦１度ずつの pos. 移動をする運指をつけてあり、右手はこれまでの「 a,m,i 」を応用する。
各音１コの８分音符でも、１小節目の符尾に示した16分音符でも　スタートのG音（開放弦）は「a」になります。

譜例-10



＊可能な限り「軽やかなアポヤンド」で弾く。